

猪熊弦一郎の略歴

- ・1902（明治35）年 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- ・1921（大正10）年 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）卒業
- ・1922（大正11）年 東京美術学校（現 東京藝術大学）に進学。藤島武二教室で学ぶ。
- ・1926（昭和元）年 5月に片岡文子と結婚。10月には文子をモデルにした「婦人像」が帝国美術院第7回美術展覧会に初入選。以後、第10回、第14回で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- ・1931（昭和6）年 佐伯市の画家・菅一郎と保田善作との合同展「猪熊弦一郎歓迎展覧会」を佐伯市で開く。
- ・1936（昭和11）年 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- ・1938（昭和13）年 フランスに遊学（1940年まで）。アンリ・マティスに学ぶ。
- ・1948（昭和23）年 『小説新潮』の表紙絵を描く（1987年まで）。
- ・1950（昭和25）年 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
- ・1951（昭和26）年 国鉄上野駅（現 JR 東日本上野駅）の大壁画《自由》を制作
- ・1955（昭和30）年 再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約20年間同地で制作する。
- ・1973（昭和48）年 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- ・1975（昭和50）年 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- ・1988（昭和63）年 妻文子が病により死去
- ・1989（平成元）年 丸亀市へ作品1000点を寄贈
- ・1991（平成3）年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館
- ・1992（平成4）年 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。以降、順次、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入
- ・1993（平成5）年 東京で死去（90歳）。

※丸亀市猪熊弦一郎現代美術館のホームページから一部抜粋